まちを支える人づくり　スペシャリストへの道
龍野北高校新聞
～地域との共生を図り、明るく活力のある学校～

令和５年３月 15 日（水）発行
第 19 号
兵庫県立龍野北高等学校
Tel　0791-75-2900
Fax　0791-75-2296

令和４年度 全日制13期生、看護専攻科11期生 卒業式が執り行われた

全日制課程

２月25日（土）、晴天の下、令和４年度卒業証書授与式が執り行われた。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、卒業生、生徒会、保護者、教職員のみが参加した。昨年度はマスクをして卒業式に臨んでいたが、２月10日、岸田首相は「今年の卒業式は、換気などの感染対策を講じた上でマスクを着用しないことを基本とする」という新しい方針を打ち出した。本校では、国歌や校歌などの斉唱以外、生徒と教職員のマスクを外す方針とした。

国歌斉唱後、卒業証書授与が始まった。担任から一人ひとり呼名され、生徒たちは大きな返事で答えた。全日制課程227名の代表は近藤　正さん、看護専攻科41名の代表は東田　彩芽さんが校長先生より卒業証書を受け取った。

在校生の送辞では、卒業生に対してのはなむけの言葉と、自らもこれからの学業に励む言葉が送られた。卒業生答辞の看護専攻科11期生代表　福田　愛さんは、今までの苦悩を語った。看護専攻科に入学後は、積み上げれば身長の半分にも及ぶテキストの数、テキスト１冊分を覚えなければ解けないテスト範囲など、挫折してしまいそうな日々を明かした。また全日制課程代表　橋本　律音さんは、マスク生活の日々を語った。振り返れば、どの写真もマスク写真ばかり。制限のある学生生活だった。苦悩と一緒に教職員に対する感謝が述べられた。

卒業生が退場する際は、担任に対する感謝の一言が述べられた。そのあと卒業生たちは、各クラスで最後のホームルームが行われ、担任から卒業証書を手渡された。また生徒から担任へサプライズでプレゼントを渡すなど、感謝と希望に溢れる素晴らしい卒業式になったのではないか。

全日制課程13期生、看護専攻科11期生、保護者の皆様、おめでとうございます。今後の活躍をお祈りいたします。

定時制課程

２月25日（土）本校アセンブリホールにて、令和４年度　卒業証書授与式が行われた。四修制３名、三修制20名、卒業証書を受け取った。出口校長先生から一人ひとり卒業証書をもらう姿には、やり遂げた達成感と少し寂しさが見えた。卒業生代表の答辞では前生徒会長の三田雄斗が入学当初からの思い出を振り返り、今まで関わってもらった全ての人へ対し感謝を述べた。コロナ禍で日常が大きく様変わりし、困惑しつつも乗り越えられた自信は在校生へも伝わったに違いない。在校生も花束を渡し卒業生との別れを惜しむ姿が多く見られた。勉学、アルバイト、部活動と様々な経験を積んだ高校生活が今後の基軸となり、大きく羽ばたいて行ってくれることを願う。